

深澤直人氏 デザイン・監修のエレベーターのコンセプトモデル「HF-1」が完成

# 日立が“HUMAN FRIENDLY”を旗印に 昇降機の無意識の移動を追求

今年7月、日立製作所と日立ビルシステムが、昇降機の製品とサービス全般を網羅する基本コンセプト「HUMAN FRIENDLY」を新たに打ち出し、エレベーターのコンセプトモデル「HF-1」を完成させた。日立ビルシステム 取締役会長 兼 CEOの佐藤寛氏と、HF-1をデザイン・監修したプロダクトデザイナーの深澤直人氏が、HUMAN FRIENDLYの真意を語り合う。

昇降機の製品やサービス全般を対象に「HUMAN FRIENDLY」というコンセプトを掲げた意図は？

**佐藤**●これまで私たちは、昇降機を利用するみなさんに安全・安心・快適をご提供するために、バリアフリーやユニバーサルデザインなどに取り組んできました。言葉では表現してきませんでしたが、以前から根底にあったのはHUMAN FRIENDLYだったのです。

今回、あえてHUMAN FRIENDLYというコンセプトを前面に打ち出すことで、進化のたびに原点に立ち返り、人間本位の技術を磨いていく姿勢を再認

識しようと思いました。

その提唱に当たっては、当初から深澤さんに参画していただき、第一弾となるエレベーターのコンセプトモデル「HF-1」のデザイン・監修もお願いしました。

**深澤**●多くの人たちが共有する昇降機にHUMAN FRIENDLYというコンセプトを掲げたのは、とても興味深い点です。

私たちプロダクトデザイナーは、これまで個人の所有を前提に様々なモノを中心にデザインしてきました。しかし、このコンセプトが示すように、これからは多くの人たちが共有する公共的な

空間、つまり一人ひとりの身のまわりや、モノとモノの間であって、普段は意識されないところのデザインの豊かさを時代が求め始めています。

人間は無意識のうちに、周辺的环境との関係性を築きながら生活しています。無意識で利用されている典型とも言えるのが、エレベーターやエスカレーターといった多くの人たちが共有する移動体です。今回のプロジェクトでは、HUMAN FRIENDLYというコンセプトに基づいて、人をやさしく包み込み、心地よさを感じさせる空間をつくりたいと思いました。

多くの人たちが共有する公共的な空間、つまり一人ひとりの身のまわりや、モノとモノの間であって、普段は意識されないとこのころのデザインの豊かさを時代は求め始めています。

佐藤寛氏

株式会社日立製作所都市開発システム社 社長  
株式会社日立ビルシステム 取締役会長 兼 CEO

深澤直人氏

プロダクトデザイナー  
NAOTO FUKASAWA DESIGN 代表

深澤直人氏プロフィール  
山梨県出身。卓越した造形美とシンプルに徹したデザインで、欧州やアジアなど世界を代表するブランドのデザイン等を手掛ける。

人に寄り添うエレベーター  
次の開発の足がかりに

**佐藤**●HF-1のデザインには、私たちの思いが集約されています。HUMAN FRIENDLYのもとで大切にしたいのは、さまざまな調和です。深澤さんの特長でもある表現のやさしさが、建築や公共空間と調和して、周辺も含めた空間に豊かさを感じさせるデザインになっています。

**深澤**●人間の身体に角がないように、HF-1にも角がありません。カゴの入隅を丸くするなど、すべてのディテールの角を落としました。また、カゴの動きと同調した操作パネルのグラフィック表示など、細部まで心地よさを追求しています。

もちろん、それは単なるデザインではありません。利用者に心地よさや豊かさを感じてもらうだけでもありません。まずはHUMAN FRIENDLYなエレベーターのハードをデザインすることが、移動体のシステムやインターフェースの開発への着手のきっかけになると思いました。これはHUMAN FRIENDLYを提供する側へのメッセージでもあったのです。

**佐藤**●私たち自身のものづくりの心を触発することも期待しています。例えば、自動車に導入している最先端のセンシング技術を昇降機に活用すると、どのような新しいサービスを提供できるのかなど、取り組むべきことはたくさんあるはず。そのための好循環を促したいという思いを込めたものでもあります。

縦移動の豊かさは未開の領域  
ビッグデータの活用も視野

今や不可欠な社会インフラであるエレベーターから都市計画を提言していくという発想があってもよいのでは？

**深澤**●これまでの都市計画は、設計や建築、土木の人たちが手がけてきました。その都市は今、横だけでなく、縦にも伸びています。その割には縦移動の豊かさには無頓着で、速さや利便性の追求で終わっているのが現状です。都市空間を豊かにしていくためには、移動体の技術を持つ人たちが、移動システムまでを含めた提案をしていけば、状況は大きく変わるかもしれません。

**佐藤**●私たちは昇降機の運転に関する膨大なデータを持っています。今はメンテナンスや安全管理などに利用していますが、私たちが得意とするビッグデータの分析技術などを駆使すれば、ビルや都市の新しい移動システムに展開することができると考えています。将来的には、そうしたところまで踏み込んでいきたいですね。

**深澤**●都市では、建築でも駅でも互いがつながっていて、単体では存在しえなくなっています。そして、そうした都市空間と最も対話しているのは人間の身体です。その意味で、身体は公共だととらえることもできます。身体が喜んだり、やさしさを感じたりする都市にいくためには、HUMAN FRIENDLYは重要なコンセプトだと思います。

**佐藤**●私たちは、まずは建築や公共空間に調和するHUMAN FRIENDLYなエレベーターやエスカレーターを追求

し、一方で日立グループとして様々な別の情報やシステムもご提供して、豊かな建築や街づくりのお手伝いをしていきたいと考えています。



お問い合わせ先

株式会社日立ビルシステム

カスタマーサポートセンター ☎ 0120-7838-99 受付時間 平日9:00~12:00、13:00~17:00  
■コンセプトムービーはこちらから <http://www.hbs.co.jp/>